

2021 年度 関西大学総合情報学部
スポーツ・フロンティア入学試験問題

小論文

注意事項

- 試験時間は 90 分です。
- あなたの受験番号を下記欄に記入してください。
- 解答はすべて、解答用紙に記入してください。
- ※欄は記入しないでください。

受験番号					
------	--	--	--	--	--

次の文章を読んで、3つの問いに答えなさい。

女性の限りない伸びしろ

主要国の男女別労働時間の内訳を家事・育児（unpaid work）といわゆる給与労働（paid work）で分け、整理してみた（図1）。家事・育児系の時間（濃いグレー）を見てほしい。

僕自身も心が痛い、日本人男性の家事・育児労働時間はなんと41分と、半ば高度成長期にある現在の中国の男性の半分以下。男女の役割分担がかなり明確なインド、韓国の男性よりも短いのだ。ちなみに、日本人女性の家事・育児の時間は他の主要国と同レベルだ。言うなれば、日本の誇る家電が生み出した大きな余力はすべて男性の労働時間に回っている。

さらにこのデータの興味深い（というか頭が痛い）ところは日本人の給与労働時間の長さだ。とりわけ主要国の中で短いイタリアと比べると男性、女性共に倍以上の時間働いている。G7の中で見れば一人あたりGDPは日本よりイタリアのほうが低い（といっても9掛け程度。）と言う人がいるが、半分以下しか働いていないイタリアの人たちのほうが人生としてみれば豊かなのだ。

日本の男性は前述のとおり、家事・育児関連を半ば放棄し、この余力で給与労働の多くを担っているわけだが、労働時間はイタリアの2倍、ドイツの1.5倍以上。これでは生産性が低いのは当然だ。非効率を人の苦痛で解決する職場なのだ。

このような非効率な労働を続けていけば、家事・育児に使える時間などなくなるのは自明でもある。長時間頑張ることでこの生産量がようやく維持できるのだ、と言う人や会社は根本的に何かを見直したほうがいい。それは家庭内手工業とか、農業機械がない時代の農作業の発想だ。

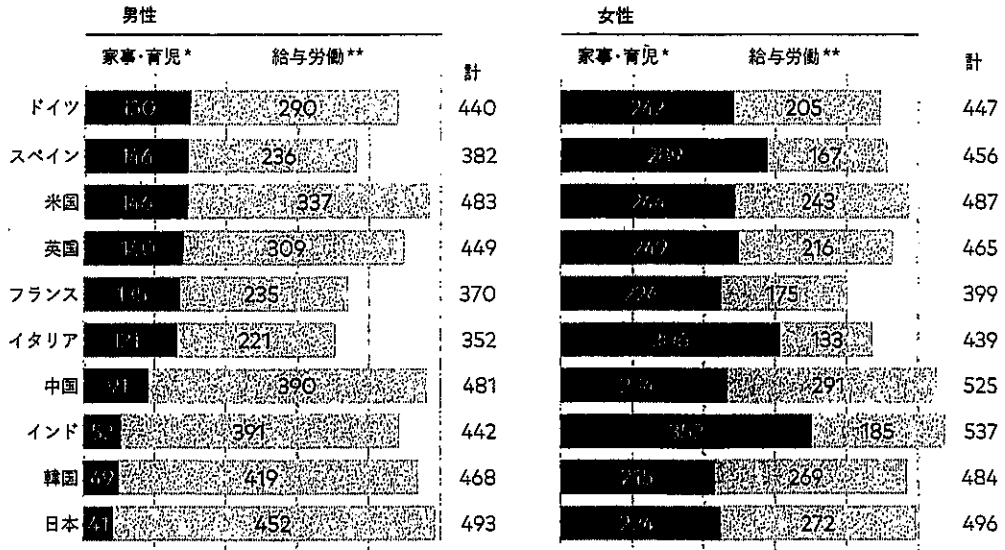
この明らかに解き放たれていない女性の時間（男性の家事時間との差の半分=1日約90分）を仕事に回すことができれば、女性が価値を生み出すキャパシティ（容量）は3割以上増える。

男性は中国、インドのような中進国と比べても1日あたり60分以上も給与労働時間が長い。ドイツ、米国と比べると162分（3時間弱）、115分（約2時間）。すなわち明らかに労働しすぎ、言い換えると例外的に非効率なのだ。そもそも国名を伏せて、図1のどれが日本か当てられる人はそういないだろう。

10年以内にイタリア、フランスレベルを目指し、労働時間ドリブンではなく、アウトプットドリブンに個人も会社も思想転換し、①少なくとも日に90分ぐらいは家事・育児時間を吸収してしかるべきだ。よくあるオペレーション改善プロジェクトのストレッチゴール（意図的に背伸びした目標設定）のように数年で3分の1にしろというような話ではない。十分に現実的なターゲットだ。

図 1

国別男女別 労働時間内訳 (分/日)



*Unpaid work, ** Paid work or study
 資料:OECD.Stat (https://stats.oecd.org/Index.aspx?datasetcode=TIME_USE#) のデータをもとに安宅和人分析(2019/8抽出)

【問1】

(1) 次の表は、カナダにおける男女別の家事・育児と給与労働の割合と合計時間(分/日)を示している。男女別の家事・育児と給与労働の実時間(分/日)を答えよ。

性別	家事・育児の割合(%)	給与労働の割合(%)	合計時間(分/日)
男性	30	70	489
女性	45	55	492

(2) 文中の図1について、国ごとに男女の総労働時間を合計し、長い順に並び替えるとカナダは上位から何番目に位置づけられるか答えよ。

【問2】

文中の図1より、日本人男性の労働時間の内訳の特徴について、国別・男女別の二つの視点を含めて150字以内で客観的に記述しなさい。

【問3】

文中の下線部①の意見を実現させるために情報技術を用いて何ができるだろうか。あなたが考える情報技術を用いたアイデアを500字以内で述べなさい。

以上

